



健やか豆知識

第21回

Q.

中耳に水が溜まる

しんしゅつせい

滲出性中耳炎の症状は？

- Ⅰ 耳の痛み Ⅱ 耳だれ Ⅲ 耳の聞こえにくさ



お子さんのかぜの後の「聞こえにくさ」に注意を。

中耳炎とは、ウイルスや細菌が中耳に入り、炎症を起こしている状態です。中耳炎には、急性中耳炎と滲出性中耳炎があり、小学校に入るまでに約9割の子どもが、どちらか、あるいは両方の中耳炎にかかるといわれています。

急性中耳炎は、かぜが原因の場合が多く、鼻やのどに付着したウイルスや細菌が、耳と鼻をつなぐ耳管から鼓膜の内側(中耳)に入って炎症が起こります。症状は突然の耳痛、発熱のほか耳だれが出ることもあります。

滲出性中耳炎は、中耳に水(滲出液)が溜まって耳が聞こえにくくなる病気です。急性中耳炎が完治していなかったり、かぜや副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎など、のどや鼻の慢性的な炎症が続いていたりするとうまく水が排出できず滲出性中耳炎になることがあります。症状は耳の痛みや発熱、耳だれはなく、難聴(聞こえにくい)や耳閉感(耳が詰まった感じ)ですので、大人にとって気づきにくく、発見が遅れることがあります。

耳鼻咽喉科では滲出性中耳炎に対し、水の排泄を促す飲み薬や、アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎を合併している場合はそれらの治療を行います。

子どもの難聴の一番の原因は滲出性中耳炎です。保護者はお子さんがかぜや急性中耳炎を起こした後、耳の聞こえの状態を注意してみてください。幼児期は、言語の習得や知識を吸収する大切な時期です。軽い難聴であっても、それらに影響することがあるため、呼んでも返事をしない、話しかけてもボーッとしている、聞き間違いや聞き返しが多い、テレビの音を大きくしたがる、耳をよく触るなどの様子がみられれば、一度、耳鼻咽喉科を受診しましょう。

高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —
高田製薬株式会社

監修 伊藤 真人 自治医科大学とちぎ子ども医療センター
小児耳鼻咽喉科 教授

さらに詳しい情報は
ホームページで!



⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください。